

2023年3月実績概要（メモ）

（2023.4.20）

定修が集中した前年に対し、伸び率では増加品目もあるが、数量面では前年を下回る水準が続く。

1. 生産動向

イ) エチレン 462,400トン

前月比 + 6.7% (+29,000トン)
前年同月比 + 23.6% (+88,200トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 10.7%	-
定修要因等	▲ 2.1%	+ 49.7%
能力増減	-	-
稼働率変動	▲ 1.9%	▲ 26.1%
生産増減率	+ 6.7%	+ 23.6%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 81.1% → 当月 79.6% ← 前年同月 96.1%

定修プラント：前月 なし → 当月 1社1プラント ← 前年同月 4社4プラント

令和4年度(会計年度)エチレン生産量 5,471.3千トン 前年度比 ▲9.7%

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加がある中、定修規模差や稼働率要因等から LDPE、PP、SM、塩ビ樹脂、EO、SBR などの9品目がマイナス。HDPE、MMA モノマー、EG、AN、BR、トルエン、キシレンなどの8品目はプラスとなった。

前年比は、定修規模差等や稼働率要因から、LDPE、PS、SM、MMA モノマー、EO、EG、ベンゼンなどの11品目はマイナス。HDPE、SBR、BR、トルエンなど6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、HDPE、PS は日数の増加を主因にプラス。LDPE、PP は定修規模差等からマイナスとなった。

前年比は、定修規模が本年は前年に比べて小さく、HDPE は伸び率の伸長がみられた。一方、LDPE、PP、PS は稼働率要因等からマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

国内の生産活動は、1月の鉱工業生産の低下に対して、2月の反転増の後、3月においてもこれを維持するものとして、生産活動のマインドは改善しつつあるが、その回復の足取りは重い。個人消費でも、マインドの持ち直しが見られるが、日用品類の値上げラッシュが続いており、足枷は解消されていない状況にある。

樹脂の出荷は、前月比は、ユーザー側の稼働日数の増加や期末要因から、LDPE、HDPE、PP、PS の4樹脂ともにプラスとなった。

前年比は、4樹脂でマイナスが続いており、数量でも当該月の単月の出荷量としては、近年では低いレベルの出荷が続いている。

分野別の出荷は、LDPE はフィルム分野、加工紙分野、HDPE はフィルム分野、PP はフィルム分野などで前年に比べ減少幅が大きかった。PS は前月と同様に包装分野を中心に主要分野の出荷がいずれも減少することとなった。その一方で、HDPE のパイプ分野の出荷が久方ぶりプラスに転じたほか、PP の射出成形分野、PS の包装分野の中では、前年を上回る部分も見られている。

ハ) 輸 出

樹脂需要は低迷しており、市況面での回復が見られず、採算面も改善が見られていない。

前月比は、期末要因もあり、LDPE、PP、PS はプラスとなった。前年比は、LDPE はプラスとなったが、HDPE、PP、PS はマイナスが続いている。

ニ) 在 庫

在庫量は、前月に対して LDPE、PP で大きく減少したほか、HDPE、PS も僅かながら減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、HDPE は上昇、PP、PS は前月並みとなった。在庫水準としては、LDPE、HDPE、PP、PS ともに高めの水準にあるが、在庫調整が引き続き進行している。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		2月末	3月末
LDPE	▲ 18,000	3.7	3.8
HDPE	▲ 300	3.5	3.8
P P	▲ 37,100	3.2	3.2
P S	▲ 7,400	2.2	2.2